

牛久：学校周辺に見る自然

第17号 牛久自然観察の森

2016年9月9日発行

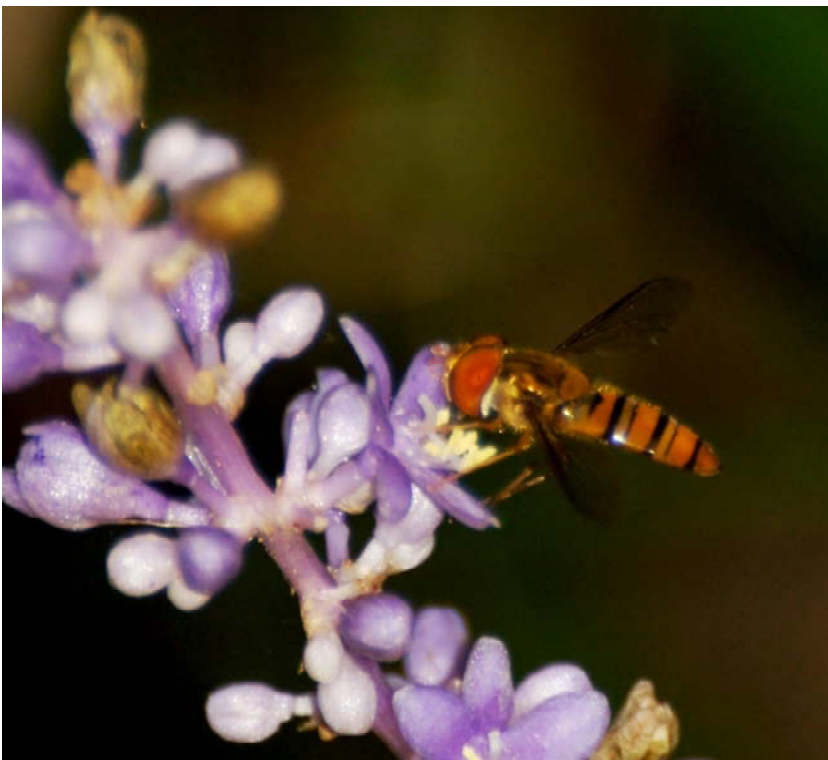
＜ 夏の終わりに、牛久自然観察の森を歩く ～ ① ヤブランと虫たち ＞

こんにちは。前号までのみずべ公園に続いて、今回は向台小の仕事帰りに寄った牛久自然観察の森で見つけた生きものたち。皆さん、一度は訪れたことがあるでしょう。暑い中でも、虫たちは元気です。



林の下や縁で見られるヤブラン(左)と、その蜜を吸うトラマルハナバチ(右2枚)。

駐車場から「タヌキの林」に入る手前の道路沿いに、ヤブランが植えられています。関東から西の暖かい地方の林の縁などでよく見られる常緑の草で、ハチの仲間がよくやって来ては蜜を吸い、花粉を運んでくれます。この森では、写真のトラマルハナバチが来ているのをよく見かけます。大きくて、ブ～んと羽音を立てられるとこわい感じがしますが、おとなしく、つかんだりして刺激しなければ刺されることはないようです。



こちらには、おなじみのホソヒラタアブが来ていました。花の大きさとくらべると、トラマルハナバチよりだいぶ小さいことが分かりますね。図鑑によると、トラマルハナバチの体長が約2 cmなのに対し、ホソヒラタアブは約1 cmだそうです。ホバリングしながら近づき、花の蜜や花粉をなめます。花に来て姿もハチによく似ていますが、じつはハエに近い仲間なのでしたね。ハチとどこが違うか、覚えていますか？

【理科支援員：宮内】

ヤブランの花粉をなめるホソヒラタアブ。